

# 校長通信 Morifun

通信の冒頭ではコロナの話題が欠かせなくなりましたが、昨年の今月号を見ると、「寒くなれば室内の換気もおろそかになり、それが新型コロナウイルスの第6波にも繋がるという話もあります。」とありました。1年経って今や第8波にいます。これを書いている時点(11/22)で過去最多の2115人の感染確認が公表されました。3年ぶりのインフルエンザの流行も予想されています。とにかく免疫効果を上げて体調を崩さないように気をつけるしかありません。今後の学校行事等が無事行われることをただ祈るばかりです。

## <高大連携探究中間発表会>

高大連携進学コース2年4組の生徒たちが、11月22日に探究学習中間発表会として、総合的な探究の時間で今年度取り組んできたテーマについて、3つのグループに分かれて、それぞれ一人ひとりがポスター発表を行いました。各自のテーマは多種多様で、なかなかジャンル分けは難しいのですが、「子供の成長、発達、心理、食事の好き嫌い」、「日本のアニメ」、「児童虐待、障害」、「教育のデジタル化」、「LGBTQ」、「本の未開墾ジャンル」など挙げれば切りがありませんが、1年生の高大コースも熱心に聞いていました。2月の最終プレゼンが今から楽しみでもあります。

## <第2学年修学旅行へ>

コロナ禍のため、ここ2年間中止を余儀なくされた修学旅行でしたが、3年ぶりに実施の運びとなりました。第8波の中どこに行っても感染の危険は付きまといますが、換気や手洗い等できる感染対策は十二分に行い、楽しい思い出を作ってきてほしいと思います。

【沖縄コース】12/1 首里城公園 2 ひめゆりの塔・資料館～沖縄平和祈念公園 3 海洋博記念公園～世界遺産今帰仁城跡 4 ナゴパインアップルパーク

【関西・広島コース】12/1 金閣寺～北野天満宮 2 清水寺～ユニバーサルスタジオジャパン 3 広島平和記念公園～宮島 4 厳島神社



## <生徒会認証式・スローガン>

11月1日に新執行部の認証式が行われ、メンバーがそれぞれの決意を述べました。22日には放送による礼拝の後でしたが、今期のスローガンが発表されました。

会長	三浦 紗弥 (2-4)	副会長	福田 莉 (2-4)
副会長	松坂 太智 (1-5)	書記	高瀬 愛麗 (2-1)
書記	大越 心陽 (1-5)	会計	吉田 拓郎 (1-4)
広報	石嶋 美祐 (2-1)		

スローガン「瞬歎」 またたく間、極めて短い期間という意味を持つ「瞬間」と、楽しみ喜ぶという意味の「歓喜」という2つの言葉を掛け合わせた造語です。「瞬」には、一瞬のように感じてしまうほど短い青春。「歎」には、その期間を過ごしている時、思い出した時に楽しかったと思える学校にしていきたいという思いを込めました。このスローガンの下よろしく願います！

## <全校礼拝より>

### 新約聖書 ヨハネによる福音書 11章28節～37節

聖書が私たちに伝えてくれている大切なメッセージ、それは、神が共に生きる、神がいつも共におられる、というのがその一つです。悲しみの時にも喜びの時にもどんな時にも、私たちは一人ではない。一方で、時にそういう信仰、信頼が揺らいでしまうことがあります。突然の出来事、悲しい出来事、不条理な出来事には、信仰を持った人でも心が揺れ動いてしまいます。ここ数日、国内外で痛ましい事故や事件が起きています。そういう出来事に遭遇したとき、神が共にいるならば、その時どこに神は居たんだろう、と疑問を持ってしまいます。神を信じているからこそ、そういう出来事が起こった時に苦しい気持ちになるのです。僕自身辛いことがあった時に、もしも神がいるのなら、どうしてこんなことが起こるのか、答えを求めて悶々としてしまうことがあります。

しかし僕の心の奥の方であるイメージが湧いてくるのです。それは涙を流しているイエス・キリストのイメージです。先程読んだ箇所、「イエスが涙を流された」とあります、これはどういう場面かということ、ラザロ(イエスと大変親しくしていた仲間)が突然亡くなってしまい、その時そこにイエスがいなかった、そして急遽そこに駆けつけたとき、ラザロの兄妹であるマリアが、「もしここにいてくださったならラザロは死ななかつたのに」と涙を流します。イエスはマリアやみんなが涙を流しているのを見て、自分も涙を流すという場面です。

僕自身もそういう辛い経験をした時に、イエスが涙を流している場面が心に浮かんで来て、一緒に涙を流して悲しんでくれている、そういう形でそばにいてくれているのだと感じます。新約聖書にはほかにも、イエス・キリストが涙を流しながら祈ってくれた場面が出てきます。「キリストは、肉において生きておられたとき、激しい叫び声をあげ、涙を流しながら、ご自分を死から救う力のある方に、祈りと願いとをささげ、その恐れ敬う態度

のゆえに聞き入られました。」(「ヘブライ人の手紙」第5章7節) イエス・キリストは私たちと一緒に涙を流し叫んで祈ってくれる、共に苦しみ共に悲しむことを通してイエス・キリストと一緒にいてくださるということです。

日々悩み、色んな疑問が尽きないわけですが、少なくともイエス・キリストと一緒に涙を流す、それは希望の光とまではいなくても、絶望しない光にはなるのかなと感じます。皆さんも辛く悲しいとき、必ず誰かと一緒にその悲しみや苦しみを共有する、外ならぬ神と一緒に共有してくれるということを心に留めてほしいと思います。(11月1日 花巻教会牧師・鈴木道也先生)

### 新約聖書 マタイによる福音書 第10章16節

聖書には不思議な言葉、どう受け止めたらよいのか分からない言葉があります。今日お読みした箇所もその一つかもしれません。「蛇のように賢く、鳩のように素直になりなさい。」

後半の「鳩のように素直に」は分かりやすいと思います。鳩は平和の象徴とされていますし、柔和なイメージがあります。「素直に」は「混じりけのない」「純粋な」とも訳すことができる言葉です。この素直というのは、「悪に染まっていない」と表現することもできます。イエス・キリストが弟子たちに向かって「鳩のように、悪に染まらず素直でありなさい」と呼び掛けています。

一方、私たちが違和感を抱いてしまうのは、前半の「蛇のように賢く」の部分です。聖書の中で蛇は否定的な存在として登場します。時には悪魔やサタンの象徴として登場します。しかしここでは蛇は悪い存在ではなく、大切な存在として出てきています。「賢く」は原語を見ると、「分別のある、思慮深い、賢明な」という意味があります。イエス・キリストが仰っている賢さとは善悪を判断する賢さです。「人をだましたり、ずる賢くあれ」ではなく、「善悪をしっかり判断できるようになるために懸命でありなさい」と仰っているのだと思います。

この言葉を読むとき思い出すのが、谷川俊太郎の『生きる』という詩の一節です。

《生きているということ／いま生きているということ／それはヨハン・シュトラウス／それはピカソ／それはアルプス／すべての美しいものに出会うということ／そして／かくされた悪を注意深くこぼむこと》

ここではまず私たちが出会う美しいものが書かれています。私たちの心を豊かなものにしてくれます。一方で私たちが生きていく上で出会うのは美しいものだけではありません。私たちの社会が生み出す悪、影の部分に出会うこともあります。「生きる」ということは、この詩のように、美しいものに出会い「心を育てゆく」ことであると同時に、隠された悪を注意深く拒んで「自分の心を守ってゆく」ことでもあります。

「蛇のように賢い」ことと、「鳩のように素直である」こと。どちらか一方だけではなく、その両方が必要だということ。例えて言うと、鳩は私たち自身の心です。そして蛇はその心を守る門番です。心の中に悪しきものが侵入してくるのを防ぐ門番です。悪も色んな解釈ができますが、悪しきもの事とは、はっきりと悪の顔をしては来ない、表面的にはいかにもいい人を装って、悪しき意図を隠し持っている人が私たちのもとに近づいてくることあるかもしれません。善悪を見極めることは難しいことです。悪意というのは気づかれぬよう、巧みに隠されたものだからです。だから私たちには注意深さ、蛇のような賢さが必要です。

「蛇のように賢く」とは、善悪を見分け、悪しきものを注意深く退ける賢明さです。「鳩のように素直」とは、悪しき意図に操作されることのない、まことの素直さと自由を私たちの内にしっかりと保ち続けていくことです。「蛇のように賢く、鳩のように素直である」ことの大切さをイエス・キリストは教えてくれているのです。

(11月22日 花巻教会牧師 鈴木鈴木道也先生)

## <部活動の活躍から>

新人大会ではけがに泣き準優勝に終わった柔道部でしたが、全校高校選手権大会県予選では満身創痍の下、堂々

の4連覇を成し遂げました。個人戦では5階級のうち2階級を制しました。日報駅伝では、Aチームが3年生の意地を見せて3位に入賞。サッカー部は選手権に続きベスト4まであと一步。

**【柔道部】全国高校選手権大会県予選 (11/18~19)**  
団体 優勝 決勝3-2 盛岡南 (4年連続11回目の優勝)  
個人60kg級②市ノ渡大誠 66kg級①小田祐輝 73kg級③伊藤旬 81kg級③熊本蓮 無差別級①山藤光星③浅田唯斗 女子個人57kg級③一戸柚

**【陸上部】一関・盛岡間駅伝競走大会 (11/23)**  
第3位 盛岡大附A2時間41分29秒  
【1区 佐々木稼全⑩ 2区 北田楓雅④ 3区 工藤七斗⑥ 4区 折戸元希⑦ 5区 田中佑弥③ 6区 天瀬海斗③】  
第6位 盛岡大附B2時間43分11秒  
【1区 松本藍琉⑧ 2区 佐々木悠斗⑤ 3区 菊池冬磨④ 4区 川村侑也③ 5区 中野鼓堂⑥ 6区 大宮大和⑩】

**【サッカー部】新人大会 (11/18~20)**  
2回戦14-0 葛巻 3回戦3-0 北上翔南 準々決勝1-1(PK5-6)花巻東 ベスト8

## <本も読み映画も観ています>

「今月お薦めの一冊」というコーナーも暫くさぼっていましたが、本も映画も多少ペースは鈍いですが、ちゃんと楽しんでいます。今回は映画について最近感じたことを伝えようと思います。最近の映画はやたら尺が長いということ。2時間越えがほとんどで、「ブラックパンサー」の新作は3時間に手が届きそうな感じで、面白いのだが如何せん長い。洋画だけでなく日本映画も長い。大作だから長いのか、映画会社の戦略なのか、折角ある程度のお金を払うのだから、それなりに長くなくては損をした気になるのか、私にはそう思えてくる。もっと短くスリリングな映画があってもいいのでは、フランス映画「秘密の森の、その向こう」72分ながら傑作でした。